



# 発行に寄せて

東北地区「鉄道の日」実行委員会 会長 澤田 長二郎

(東北鉄道協会会長・津軽鉄道株式会社代表取締役社長)

未曾有の大震災から1年以上が経過しました。震災で犠牲となられた御靈のご冥福と被災された方々の一日も早い生活再建をお祈り致します。

東北の鉄道も沿岸部を中心に甚大な被害を受けましたが、JR 東日本、三陸鉄道、仙台空港鉄道をはじめとする被災鉄道事業者に於いては、不眠不休の努力によって既に多くの線区で復旧を成し遂げ、或いは、今まさに成し遂げようとしています。

又、この震災は、単に施設被害にとどまらず、運行再開後も風評被害や自肃ムードによって、これまで観光誘客に力を注いできた東北のローカル鉄道に大きなダメージをもたらしました。そんななか、東北鉄道協会では「こんな時こそ！」と歯を喰いしばり、被災地や被災鉄道等を支援するイベントを幾つも仕掛けて参りました。

我々東北の鉄道事業者にとって、本当に厳しい1年余でしたが、震災以降、東北新幹線や被災鉄道の運行再開の様子が毎日のようにマスコミに大きく報道され、我々鉄道マンの努力が被災地の復興を牽引する大きな原動力と成っている事を認識致しました。又、長期間運休を余儀なくされた事で沿線の方々には多大なご不便をお掛けしましたが、このことが、鉄道は地域住民の生活にとって非常に重要な役割を担っていたことを私たちに改めて確信させてくれました。

そして、本当に沢山の方々が私たちの鉄道の復旧を心待ちにし、祝って下さったことに対し心から感謝申し上げると同時に社会的責任の重さを痛感致して居ります。

そんな中で執筆・発行された本誌「よみがれ！みちのくの鉄道」は、震災から1年余りを経て、東北地方の被災鉄道各社が復旧に至る迄の過程と貴重な体験を集大成した文献であり、誠に意義深いものであることから、東北地区「鉄道の日」実行委員会による活動の一環として支援させて頂く事と致しました。

最後に、本誌発行に当たりご尽力いただいた「東北の鉄道震災復興誌編集委員会」の皆さんのご努力に敬意を表するとともに、この復興誌が一人でも多くの鉄道関係者の目に触れ、今後の鉄道防災対策に活用されることを祈念致します。